

リトアニア政治・経済月間情勢(1月)

概況

- 新政権閣僚の近隣国訪問が相次いで実施され、新政権の外交活動が本格化。主な課題は、近隣国との関係改善、エネルギー関連プロジェクトの実施、EU議長国準備。
- 2012年のGDP成長率は3.6%と、EUの中でも高い部類。好調な農業生産と輸出が大きく寄与した。財政赤字もGDP3%に抑えられ、経済の回復基調が継続。
- ビスギナス原発計画について、エネルギー戦略を見直す作業部会が設置され、検討が開始。政府は、このプロジェクトは地域プロジェクトであることが必要と、ラトビア及びエストニアに強調。

内政

- 【3日】昨年10月のリトアニア国会総選挙を監視したOSCE/ODIHR監視団の報告書が発表され、全体的に民主主義が機能と評価する一方、票の平等などの課題もあると指摘。
- 【7日】グリボウスカйте大統領は、米国籍スケート選手の当国籍要請を却下。14日、大統領は憲法裁判所に対し、国籍付与要件拡大にどのような法改正が必要かを諮問。
- 【9日】統計局は、2013年初頭の人口は297.9万人で、前年比0.9%減少、主な要因は移民流出と発表。
- 【13日】国会で、1月13日テレビ塔事件の追悼式及び自由勲章授与式が開催され、グリボウスカйте大統領、ゲドビラス国会議長他が出席。
- 【15日】バリース検事総長は、国会に対しベンツキエネ「勇気ある道」党首の特権免除剥奪を要請。
- 【17日】アウシュレビチュウス議員(リベラル・ムーブメント)が7人目の国会副議長へ就任。
- 【25日】ブトケビチュウス首相は、1863年1月蜂起関連展示会にリトアニア首相として初めて出席し、ポーランドとの関係改善に意欲を示す発言。
- 【26日】政党支持率調査で、社会民主党の高支持(29.1%)が維持、グリボウスカйте大統領の支持率は回復、労働党及びウスパスキフ党首の支持率は、不正経理裁判が再開されたことから低下し始めた。
- 【28日】ブトケビチュウス首相は、エネルギー、移民対策、若年層への雇用創出を政府の優先事項とすると発表。
- 【30日】中央選挙管理委員会は3月3日の3小選挙区選挙(ウクメルゲ、ビルジャイ・クピスキス、ザラサイ・ビスギナス)への立候補は37人と発表。

外交

- 【9日】オレカス国防大臣は、当地訪問中のパブリクス・ラトビア国防大臣と会談し、バルト諸国の国防協力を協議。当国士官学校へ在籍したラトビア軍司令官を記念する碑の除幕式へ出席。
- 【10日】ブトケビチュウス首相はラトビアを訪問し、ベルズインシュ大統領、ドンブロウスキス首相等と会談。2国間関係、エネルギー、多年度財政フレームワーク等のEU関連事項等について協議。
- 【10~11日】トラカイで外交・安全保障に関する非公式会合(スノー・ミーティング)が開催され、スロバキア、スウェーデン、ルーマニア、ラトビア及びグルジアの外相他が出席。リンケビチュウス外相は、今回の会合で環大西洋連携の重要性が強調されたと発言。同外相はこの会合へ出席した各外相と個別会談を実施。グリボウスカйте大統領は、会合出席者と別途会合を持ち、当国のEU議長国の課題等を説明。
- 【11日】リンケビチュウス外相は、ロシアが推進するユーラシア連合を軽視すべきでなく、ウクライナが東方パートナーシップかこの連合のどちらを向くかは重要と発言。
- 【15日】国防省は、マリの国防軍訓練ミッションへの参加を検討中であるが、軍事行動には不参加と発言。17日、EU臨時外務理事会に出席したゲルマナス外務副大臣は、1~2人の要員派遣を考えていると発言。
- 【16日】オレカス国防相は、当地訪問中のヘンデ・ハンガリー国防相と会談し、ハンガリーの2015年NATOバルト領空監視ミッション参加を歓迎。
- 【16日】スウェーデン活動家のベラルーシへの無許可飛行(昨年7月発生)に関し、リトアニア検察庁は、領空侵犯の確認とスウェーデン2名の実行犯を特定し、関連書類をスウェーデンに手交し、今後の処置は委ねると発表。

【16～17日】ポチウス軍司令官はNATO軍事委員会へ出席。

【17日】リンケビチュウス外相はラトビアを訪問し、ベルズインシュ大統領、リンケービッチ外相、ロニス運輸相、パブリクス国防相と会談。2国間関係、エネルギー、EU等国際場裡での協力等について協議。

【18日】アルジェリアで発生したテロ事件に関し、外務省は非難声明を发出。

【21日】グリボウスカイト大統領は、外交団との年始会合で、EU議長国準備及びエネルギー安全保障の強化が本年の優先事項と説明。プトケビチュウス首相は、各国大使に対し、2014～15年の安保理非常任理事国入り及びOECD加盟、ポーランド及びロシアとの関係改善が外交目標と強調。

【21日】リンケビチュウス外相はアイルランドでのEU政策担当非公式閣僚会合に出席。別途ギルモア・アイルランド副首相兼外務貿易相、フィーレ欧州委員、グルブイエシッチ・セルビア欧州統合担当副首相、ペイヨヴィッチ・モンテネグロ欧州統合担当大臣と会談。

【22日】グリボウスカイト大統領はデンマークを公式訪問し、マルグレーテ2世女王、トーニング＝シュミット首相、ルッケトフト国会議長と会談し、EU議長国経験の共有、ビジネス協力の強化等で一致。

【22～23日】英国のEU残留を問う国民投票に関し、グリボウスカイト大統領は英国のEU脱退は両者の利益にならない、リンケビチュウス外相は英国は重要なEU加盟国と発言。

【23日】リンケビチュウス外相はスウェーデンを訪問し、ビルト外相、オルソンEU担当大臣、エンストローム国防相他と会談し、エネルギー及び東方パートナーシップを重視することで一致。

【24日】プトケビチュウス首相はエストニアを訪問し、アンシップ首相と会談。経済関係強化、ビスギナス原発建設計画や運輸プロジェクト等の地域プロジェクト等について協議。

【25～27日】リンケビチュウス外相はチリでのEU・ラ米・カリブ諸国外相会合に出席。

【29日】オレカス国防大臣はラトビアでのバルト3国防大臣会合に出席。NATOバルト領空監視ミッションは当面リトアニアがホストすると述べた。

【30日】ブリュッセル訪問中のプトケビチュウス首相は、シュルツ欧州議長と会談し、同議長は農家への平等な支払を求める当国の立場を支持した。

【31日】リンケビチュウス外相はEU外務理事会に出席し、EUは南方と東方の隣国へ同一の原則を適用すべき、当国は移行期にある国の改革を支持すると発言。

【31日】グリボウスカイト大統領は、デンマーク紙とのインタビューで、ロシアとの関係改善は互いへの敬意と対等な関係によってのみ実現可能と強調。

経 済

【4日】首相府は、1月に予定していた金融取引税導入の検討は、導入後の影響に関する追加情報が必要であり、延期すると発表。

【16日】当地主要銀行及び世銀は、当国の経済成長率予測を発表し、2013年はユーロ圏やロシアの不透明な経済見通しのため、下方修正(修正後の予測値は2.5%から4.0%)。14年には3.5～4%成長への復帰を予測。

【16日】マチューリスSwedbank主任エコノミストは、2013年の財政赤字GDP比は2.5%、公的債務は38.4%と予測。インフレ率は3.0～3.3%と見込まれ、ユーロ導入は早くて2017年と予測。

【25日】プトケビチュウス首相はバシリャウスカス中央銀行総裁と会談し、政府は2015年のユーロ導入を目指す、人為的な措置は取らないと発言。31日、ユーロ導入に関する世論調査で、賛成32%、反対57%との結果。

【30日】リトアニア統計局及び財務省は、2012年のGDP成長率はEU内では高い3.6%、財政赤字は対GDP比3%でマーストリヒト基準を達成、輸出額は+14%、輸入額は+9.6%と発表。ラベニエネ統計局長は、GDP成長率は主に農業生産と輸出の伸びが影響したとコメント。

エネルギー(含むビサギナス原発プロジェクト)

【7日】ネベロビッチ・エネルギー大臣は、当地報道とのインタビューで、新政権は原発そのものに反対ではなく、原子力と再生可能エネルギーの共存も可能と発言。

【10日】ラトビア訪問中のプトケビチュウス首相は、作業部会によるエネルギー戦略の見直し結果は4月末に公表する、ビサギナス原発は地域プロジェクトという形でのみ実施可能と発言。

【16日】ネベロビッチ・エネルギー大臣は、ストラスブールでエッティンガー・エネルギー担当欧州委員と会談し、新政権はエネルギー戦略プロジェクトを継続、ビサギナス原発については性急な結論は出さないと発言。

【17日】プトケビチュウス首相は、エネルギー戦略を見直す作業部会を正式に設置し、3月末までに政府に対する提案をまとめるよう指示。ネベロビッチ・エネルギー大臣が議長を務める。

【22日】デンマーク訪問中のグリボウスカイト大統領は、当国のエネルギー事情を考えれば、原発新設は適切、これは長期プロジェクトであり、全政党間での検討と国民との協議が重要と発言。

【22日】2012年の当国電力輸入量は約85.6億キロワット、そのうち56.2%はロシアからの輸入と配電会社が発表。

【24日】エストニア訪問中のプトケビチュウス首相は、新原発が利益を生み、消費者が許容出来る電力価格であれば建設に賛成できると発言。

【24日】ネベロビッチ・エネルギー大臣はラトビアを訪問し、パブリュツ経済大臣と会談し、ビサギナス原発は地域プロジェクトとしてのみ実施可能で、地域パートナーの明確な立場が必要と発言。

【25日】ネベロビッチ・エネルギー大臣は、当地訪問中のメドベージェフ・ガスプロム副社長と会談。30日には欧州委員会も含めた実務会合が開催されたが、プトケビチュウス首相は今後もこのような協議を継続すると発言。

【29日】プトケビチュウス首相は、ビサギナス原発建設費用及び投資額への配当等について3月末までに公表すると発言。

【30日】ブリュッセル訪問中のプトケビチュウス首相は、エッティンガー欧州委員と会談し、EUエネルギー第3パッケージ実施を継続すると述べ、同委員はそれを支持すると発言。

日本との関係

【3日】外務省は、12月にリンケビチュウス外相が玄葉外相(当時)から就任祝辞を受領したとのプレスリリースを発出。

【5日】リエトボス・リタス紙は、当国の著名なオペラ舞台監督イベルハウプタイテ氏による3ページにわたる写真入東京紹介記事を掲載。

昨年11月からグリボウスカイト大統領のイニシアティブにより、当国学校への図書寄贈キャンペーンに関して、日本大使館は日本関連書籍26冊を寄贈。

【27～28日】佐々木経済産業審議官が来訪し、ベサイト経済大臣の他、エネルギー省、外務省、財務省、大統領府関係者と会談。

【28～29日】日本から日本酒蔵元及び日本酒促進団体2名が来訪して、國酒日本酒の紹介事業を実施。日本酒に関心を有する政財界人や酒販業者などに、日本酒の歴史、文化等を紹介し、試飲を実施。両日で約70人が出席し、日本酒に対する興味、関心が増したとの反響が寄せられた。

この資料は、リトアニアの政治・経済情勢を中心に各種報道、発表をとりまとめたものですので、記載事項の信憑性まで確認したものではありません。

記載事項は在リトアニア日本大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。